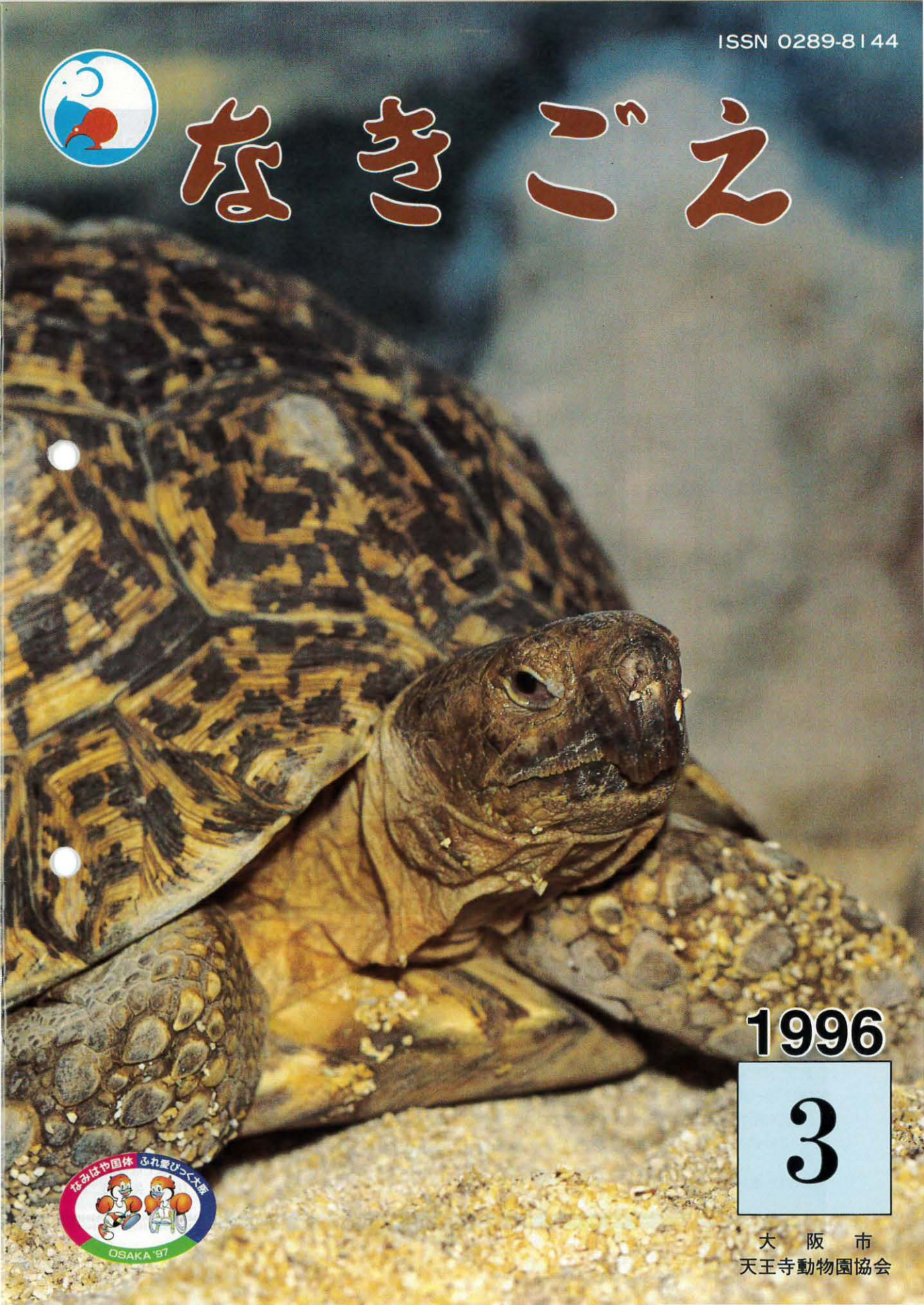
ISSN 0289-8144

なきごえ



1996
3

大　阪　市
天王寺動物園協会

なきごえ
3
1996

（撮影：榊原 安昭）

2 —— New Face フサホロホロチョウ来園（榊原 安昭）
3 —— 動物と私 会　話（保手浜　孝）
カバーウォッチング ヒョウモンガメ（長瀬 健二郎）
4 —— キツネを追って（加納 康嗣）
6 —— ドリルの人工哺育（鈴木 克治）
8 —— グラフZOO アミメキリンの誕生から婿入りまで（小林 崇宏）
10 —— 動物なんでも相談室（榊原 安昭）
11 —— ZOO DIARY

カバーウォッチング

ヒョウモンガメ
カメ目　リクガメ科
Geochelone pardalis

スーダンから南アフリカまで広く分布する草食のリクガメです。高湿度に弱いので日本の夏のむし暑さは要注意です。最大で甲長65cmにまでなります。

（撮影：長瀬 健二郎）

動物と私

会　話

保手浜　孝 さん
（版 画 家）

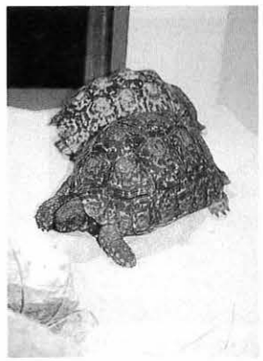
「小さい頃ね、私、乳牛のおなかの下をくぐって遊んだの」
「へえ、おしつぶされたりしなかった？」
「ちょっとスリルがあったけど大丈夫。気の優しいおだやかな牛だった。牛の眼見た事ある？　牛の眼って大きくてまつ毛が長くて澄んだ眼に色んな物が映ってるの。乳しぼりもしたよ」
「牛か。僕が小学生の頃は、まだ田んぼがあちこちにあってね、農家のおじさんに連れられた牛が行く手に現われたりすると、もう、おっかなびっくりのへっぴり腰で横をすりぬけた覚えがある」
「父は肉牛も飼っていたの。時に綱が離れて牛が逃げ出す事があってね、そんな時、“澄子、両手を拡げてそこをふさげ！”と大声で父が叫ぶんだけれど……こわくて、とてもそれはできなかった」
「……」
「小学校二、三年の頃かな、学校から帰ると鳥小屋に入って、ニワトリに学校で習った歌を歌ったり笛を吹いたりしてやってたの。自分が一番うまいって感じでね」
「えっ、ニワトリに？よろこんだ？」
「最初、迷惑がってたけどそのうち心が通うと一緒に歌ったりしたよ。チャボも飼っててね、私が歩くとず一っとついてくるの。どこにでも。下駄箱の上で卵を生むところも見たよ。障子の陰からそっと見た。白いピンポン玉のような卵がポロンと出てきた」
「色んな事をしてたんだね」
「スズメの赤ちゃんも育ててね、嬉しくて、頭の上に乗せてかわいがってたら、見事にフンをされた。山羊や豚もいたの。そう、マルという犬もいてね、タマネギ小屋の二階に登って遊んでいたらハシゴを登ってくる犬だった。でも自分で降りられなくなって、私が抱いて降りてたの」
「ふーん。小さい頃、本当に色んな動物とふれあって遊んでたんだね。僕は、アパート住まいだったからあまり動物を飼った事もないんだ。記憶と言えば、やはり小学二年の頃かな、カナリアがどこかの家から逃げだしてアパートの屋上にいるのを友達が見つけたんだ。みんなではあはあ階段をかけ上がってつかまえようとすると、ふらふらと飛んで逃げた。“あっちだ！”と僕たちは我先に追いかけてとうとう屋上の手すりにとまっていたカナリアをパッ！と両手でつかまえた。でも、そっと指を開いてみたら、もう動かなかった……。そんな僕が今は鳥の版画をいっぱい作っているんだから不思議だよね」

山口の田舎で育った女房と兵庫の少し都会で育った私が、三十数年前を思い出しての会話です。人は一生の間に様々な形で動物と出会い、そして別れます。人生は、一人の人間一匹の動物、あるいはたくさんの彼らとの出会いや別れを通して幾重にも豊かになっていくのではないでしょうか。

（ほてはま たかし）

フサホロホロチョウ来園

昨年の11月24日にフサホロホロチョウが2羽来園しました。当園には1982年以来のお目見えです。紫色の美しい姿をキジ舎でご覧ください。



キツネを追って

加納康嗣　名張みどりと生き物の会

三重県名張市に住んでいる私は、地域の人達と「名張みどりと生き物の会」を作り、自然観察会など自然に関する普及活動を行っています。

大阪勤めの私が、余暇の多くを我が町の自然観察活動で過ごすようになったもとはと言えば、1頭のキツネとの出会いがあったからです。新興住宅地の周りは赤松を主とした痩せた滋味の低い山地が広がっています。長い間、ブナ林や照葉樹林など原生的な自然にあこがれ、身近な里山と呼ばれる低山地の自然の価値を知識として知りながら、その実、あまり顧みることなく過ごして来ました。しかし、3年程前の初夏の夕暮れ、街の灯が明るく輝くころ、公園の道を小さなキツネがおどおどしながらやって来た時、頭を強く打たれたような衝撃と感動を覚え、里山が広がる我が町の自然の豊かさを痛感したのでした。もちろんそのキツネは、硬直して立っている私をすぐに発見すると、あわてて側の藪の中に逃げ込みましたが、これが最初で最後の出会いではなく、それから5回にわたって出会うことになりました。本当のところは、出会うというより待ち伏せしたというのが正しい表現でしょう。なぜなら、いちずに歩いてくる姿から、子どもたちに餌を探しに行く母親の姿を認め、これなら必ず、毎夕この道を、餌を求めて歩いてくるに違いないと言う直感がみごとに当たったからです。しかしこれではっきりと雌と確認できた訳ではもちろんありません。薄暗い中で、股間を見ることはほとんど不可能だったからです。

彼女を待ち伏せする間に、思わぬ幸運に巡り会うこともありました。雄と思われる大きな個体に出会うことができたからです。2回とも広い舗装道路の真ん中を真っすぐに近づいて来て、私に気づくと急ぐでもなく道の片側に避けると、側の切り通しに駆け上がり、ゆっくりと私を振り返ってからおもむろに崖の向こう側に消えていきました。その物おじしない堂々たる態度や、予期せぬ出現は、いつも私を避けて逃げていた彼女の態度とは全く正反対でした。“俺は自分の進みたい方角に行くんだ。”という断固たる意志を感じました。

夕方を主にした、時には早朝4時頃の待ち伏せも、8月には成功しなくなりました。遅くまでデートをする若者や中年に“覗き”と間違えられたり、変な野良ネコに付きまとわれたり、藪蚊に襲われたり、散々な目にも合いましたが本当に楽しい短い逢瀬でした。会えなくなったのは、犬を散歩させる人間など妨害者のせいだけでなく恐らくキツネの方の事情によるものでしょう。

10月までの7回に及ぶ待ちぼうけの後、未練を断ちがたく、巣穴など彼らの残した痕跡を求めて丘陵地帯を歩き回ることにしました。休みの夕方と早朝、時には深夜、約2－3時間、廃田に通じる小道や、公園の遊歩道、ゴルフ場のグリーン、農道など起伏のあるコースを足音を忍ばせながら歩き回りました。時には巣穴を探すために、道なき山林をローラー作戦と称してくまなく探索することもしましたが、単純と思った地形は意外に山並が入り込み複雑で、廃田が伸びていて方角を失い、イバラに引っ掻かれ、登り下りに膝を痛め、疲労困憊して、散々な目に合って失敗しました。痕跡探索もはじめから目覚ましい成果が望めませんでした。キツネがどこにどのような痕跡を残して行くのか全く分かりませんでした。ただ、回を重ねるごとに何かが見えてくるはずだという今までの自然観察の経験からくる確信があっただけでした。解説書によると、彼らの行動圏は広く、糞や尿で臭いを残し、テリトリーを示すと言うことです。そこで、行動圏の中に餌場を設置して、立ち寄るかどうか確認したり、“においポスト”を探すことにしました。10月中頃から2月末までの探索で、山土の上に置いた鳥肉や犬用ジャーキーを食べに来た跡や、ゴルフ場のバンカーにしるされた一直線の足跡をいくつか発見することができました。ウンコも見つけることができましたが、最も印象に残っているのは、コンクリート舗装の農道の真ん中に設置した餌場の盛り土の上に排泄された、3切れの立派な、毛玉のようなウンコでした。先がねじれたようにとがっている典型的なキツネのウンコでした。盛り土は足跡を調べるために置いたものですが、その真ん中にこれみよがしに残されていました。ウンコは何にも言わないけれど、そこには“俺はここにいるぞ。探したければ探しにこい。”というキツネの強烈なメッセージが託されているようでした。

においポストとなったプラスチック杭

探索を始めて間もなく、山道沿いに打ち付けてある土地境界杭の多くが、サインポストになっているのに気づきました。その中でもゴルフ場のグリーンの間際にある林の中の、プラスチック杭が、特に強烈な臭いを放っていました。杭の上は齧られて穴が開き、地面際の表面には幾筋かの尿の跡が鮮やかに残っていました。側のバンカーには、杭に立ち寄ったり、立ち去って行った並み足の足跡がたびたび残されていました。

春が巡って来て、もう一度キツネを探して見ようと思いかけた頃、近くの開けた畑に取り残された小高い丘に登ってみました。そこで見た光景は胸の高まりとともに今でもよく覚えています。真新しい穴が掘られ、掘り出した土が穴の前に盛り上がっています。丘の上の平坦部にも穴が開けられていました。その前には泥々コテコテになり、齧り跡がついたグローブや軍手が転がり、キジバトの羽が散乱していました。周りの草は踏み敷かれて赤茶けています。頂上に登り詰めた時です。昼寝でもしていたのでしょうか、子ギツネが不意を食らって、あわてふためいて、側の横穴に飛び込みました。

そこは見事な繁殖巣穴でした。6つの巣穴が開き、ほかにいくつか古い巣穴跡もあります。光が燦々と当たり、頂上には広い窪地があって、昼寝をしていても下からは絶対に見えません。畑地の真ん中という立地の危険性を除けば、明るさと言い、暖かさと言い、見晴らしといい申し分ありません。キツネが本来的には草原の動物であることをこの時はっきりと知らされました。暗い林や藪の中を巣穴探しに明け暮れた数カ月が悪夢のように思い出されました。

巣穴群のある丘

子どもは3頭でした。5月下旬から6月の初めまで、200mほど離れた台地の上から都合5回、彼らが動き回るのを観察することができました。真っ昼間にも姿を現し、駆けずり回っています。人に気付かれないかと、やきもきしなければなりませんでした。3回ほど姿が見えなくなってから、既に立ち去ったと判断して、丘に登って詳しい調査をしました。ゴミあさりをしたのでしょう、ビニール袋やアルミ箔、紙おむつなどが散乱し、ウンコを調べると、この丘に生息する葉っぱ食いのコガネムシの前翅ばかりだったり、ジャノメチョウの幼虫の頭が出て来たり、ガムのような物に絡まった鳥の頭骨があったりしました。またヤマドリの羽が大きな巣穴の中に散らばっていました。彼らは空腹を癒すために丘に生息するコガネムシやジャノメチョウを食べ、親からはキジバトやヤマドリなどの野鳥をもらっていたのでしょう。また、遠出の帰りにはグローブや紙おむつ、軍手、ビニール袋などを咥えてきて、おもちゃにして遊んでいたのでしょう。

キツネのウンコの中から出てきたジャノメチョウの幼虫の頭部

1つの巣穴群の発見を契機にして、次々に別の巣穴群を発見することができました。ある巣穴にはゴミが散乱していて、以前に子育てをしたことを証明していました。それだけでなく、真っ昼間、成獣にも出会うことができました。2回とも、前回に出会ったと同じ雄と思われる大きな個体で、そのうち1回は、偶然に出会ったというより、捜し出したと言った方が正しいでしょう。

巣穴の入口

それは明るいよく晴れた昼過ぎでした。切り通しの崖の中途に散乱したポルノ雑誌の不自然な散乱状況から、キツネが遊んだ跡ではないかと直感して、崖につけられた細いケモノ道を辿って、丘陵地の頂に向かって足音を忍ばせて行きました。

灌木の根元にケモノが丸くなって寝ていたような落ち葉の地面が浅く凹んだ所がありました。不思議に思って、屈んで調べてから頭を上げたときでした。わずか10数m先の灌木の陰から大きなキツネが立ち上がり、振り返りもせずゆっくりとした足取りで下の藪の中に立ち去っていきました。後ろ姿は、“昼寝を邪魔するなよ！”と言っているようでした。昼下がりの静寂の中に落ち葉を踏んで立ち去って行く足音がしばらく聞こえていました。もう少し気づくのが早ければ、確実に顔を会わせることができたことでしょう。

この頃私のもとにキツネの情報がよく入って来ます。この3年間のささやかな経験のお陰で、ようやく少しはキツネと付き合う自信がついたような気がします。

（かのう　やすつぐ）

ドリルの人工哺育

昨年の当誌『なきごえ』11月号で希少動物ドリルの繁殖計画についてご紹介し、ドリルの飼育経過から出産に至るまでのお話を載せましたが、今回はその生まれた子の人工哺育の概要についてご紹介しましょう。

人工哺育に至るまで

昨年の7月29日午後2時30分、ドリルが出産しました。出産予定日はもう少し後だろうと思っていましたので、ドリルが出産しているという連絡を受けたときは驚きました。サル舎に駆けつけると、オスは母子に危害を加える様子もなく普段どおりだったのですが、メスが生まれたばかりの子供を片手で抱きながら、神経質に動き回っていました。一昨年10月の時は母親が初産のせいもあってか、子供をしっかりと抱かずに床に落としたり、水のなかに漬けたりするなどの異常行動を示し、出生後2時間で子供は死亡してしまいました。今回もその二の舞になるのではと、一瞬不安な気持ちに襲われましたが、とにかく母親を安心させることが先決と、オスと分離して寝室に収容しました。しかし子供を抱こうとする素振りはなく、ついには床に置き去りにする動作も認められたため、母子を分離し、子供は人工哺育で育てることにしました。

なお、今回の妊娠期間は181日でした。

人工哺育の経過

母親から引き取った子供は顔や体に少し擦過傷が認められました。体温が少し低下していましたので、早速、動物病院で温かいお風呂に入れて体温の回復をはかりました。子供はオスで、思いのほか元気でした。ヒト未熟児用人工保育器に収容しましたが、母親が床に落としたりしていたため内出血なども心配され、一晩だけ動物病院で経過観察しました。因みに愛称はドリーと名付けました。

出生当日のドリーの体重は750ｇで、初日の哺乳回数は2回で合計27mlのミルクを与えました。ミルクは和光堂のボンラクトiを用いましたが、このミルクは乳糖の分解ができない人間の乳児用で、以前フクロテナガザルの人工哺育にこのミルクを使用し、下痢が止まったことから、今回は最初からこの粉ミルクを使用することにしました。乳首と哺乳ビンはエスビラック社のイヌネコ用を使用しました。

翌日からは飼育管理の作業上、便利なようにと人工保育器ごとサル舎の管理室へ移動しました。朝7時から夜8時までの間、1日6回の哺乳回数で合計140ml前後のミルクを与えました。最初はゴムの乳首に馴染まないのか吸いつきが悪かったのですが、数日で慣れると一気に飲むようになってきました。以降40日齢までグラフに示すように哺乳量を徐々に増やし、40日目での哺乳量は約250mlに達しました。1日の哺乳回数もグラフに示すとおり、段階的に減らしていきました。

誕生翌日で体重は730ｇ、頭胴長は24cm

37日齢からは離乳のためにリンゴ5ｇを与え始めました。以降、ブドウなどの果物を徐々に増やし、これとは反対に哺乳量は減らしました。(41日齢からは哺乳回数3回、哺乳量約200ml、給餌量78ｇ、64日齢からは哺乳回数2回、哺乳量176ml、給餌量136ｇ)

82日齢からは給餌量を235ｇに増やし、その後、くだものを増やしてもあまり体重が増えなかったため、87日齢から哺乳回数は2回のままで、哺乳量を220mlに増量しました。

生後61日目、
体重1080ｇ、頭胴長27cm

哺乳に1つの秘訣があります。これは今までのサル類の人工哺育で経験したことですが、一気にミルクを飲ませると胃の中に空気も一緒に吸い込んですぐにお腹が一杯になって哺乳量が伸びないため、10～15mlのミルクを飲ました後、一旦、哺乳を中止して背中を軽くたたきました。これでゲップが出ますので、またミルクが飲めるというわけです。授乳中にこれを必ず繰り返し行いました。

病気について

現在までに4回（13、23、27、110日齢）の下痢を経験しています。いずれも小児用に調合した下痢止めの飲み薬を使用しましたが、4回のうち3回の下痢便に血液が付着していたためたいへん心配しました。飲み薬の効果が認められない時は下痢止めの注射も併用しました。人間の子供と同じで、ドリーも注射が痛いと分かるとそう簡単に抱かれようとはしなくなりました。しかしうまい方法を見つけました。ミルクを飲んでいるときは何をしても抵抗しないため、注射の必要があるときは哺乳中にしてもらうことにしました。下痢以外には大きな病気をすることもなくドリーは順調に成長しました。

なお、ドリーの人工哺育には当初は前述したヒト未熟児用の人工保育器を使用しました。最初は保育器内の温度を約33℃、湿度約60％に保ちました。また、サルの赤ちゃんはしがみつくものがないと不安がることから、母親のかわりに丸めたタオルを与えました。

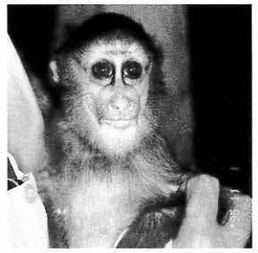
成長の記録

生後2日目には、自分で犬の“おすわり”の様な姿勢をとるようになり、首にも力が入るようになりました。ヒトの赤ちゃんではとても考えられないことです。9日目から徐々に動きが活発になり、未熟児用保育器にはとても収容しておけないほどになってきたため、運動も十分出来るようにと、大きめの保育箱を作ることにしました。人工保育器の下部にあるヒーターと加湿器を利用し、その上に木製で金網張りの手作りの檻を合体させました。12日目からはこの保育箱の金網を利用してつかまり立ちをするようになりました。

室内で育ててばかりでは紫外線不足になるため、天気のよい日に限って、1日30分程度の日光浴をさせました。サル舎の横でこのドリーを抱いて坐っていると、入園者も関心を示し、サルの種類や哺乳量、世話の苦労話などを尋ねてきたりして、楽しい一時でした。

20日目からは保育箱内につり下げた枝にぶら下がって遊ぶようになりました。またこの日に丁度金網に掴まって登るのが確認されましたが、登ってみて怖くなったのか、この日は自力で降りることができず、手助けが必要でした。しかし翌日からは自由に昇り降りが可能になりました。

ドリーの動きがさらに活発になってきたため、103日齢でさらに大きな保育箱を作製しました。これには来るべき冬に備えて、保温のためにペット用のマットヒーターを床下に設置しています。



生後95日目、
体重1470ｇ、頭胴長31.5cm

生後60日目頃より自分の親指をしゃぶる行動が見られるようになりました。これは6か月齢を越す今でも見られます。

おわりに

ドリルの人工哺育は日本ではこれが初めての成功例となりますが、今まで経験した他のサル類の人工哺育がたいへん役立ちました。しかし種類による違いなのでしょうか、それとも個体の差なのでしょうか、過去に経験したニホンザル、フクロテナガザル、パタスザル、それぞれミルクの飲み方、成長、病気、離乳などが異なっているのは大変興味深かったですし、私自身、またとない経験をさせてもらえたものだと思います。ドリーが成長し、いずれ似合いのメスを導入できる日が楽しみですし、この希少なドリルの一層の繁殖をはかっていくためにも、早くドリーの弟や妹が生まれてほしいものです。もちろん、今度は本当の母親が育ててくれることを切望しています。

（飼育課　鈴木 克治）

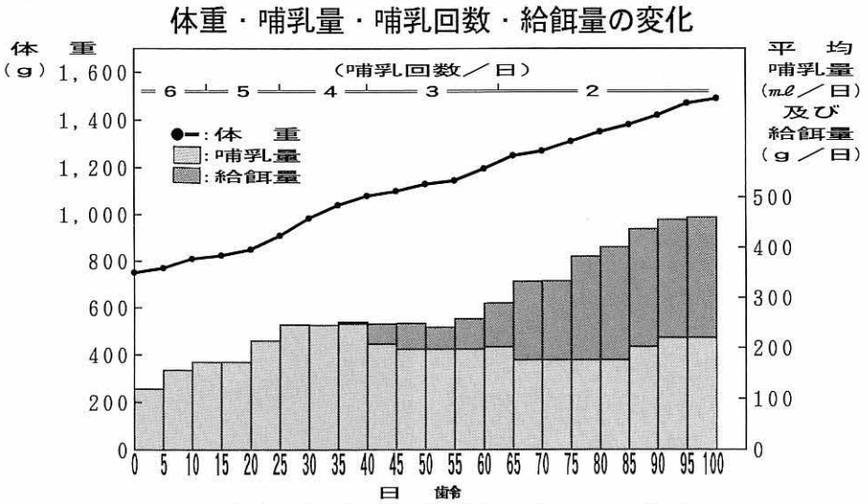


図　体重と哺乳量・給餌量の変化（生後100日齢まで）
折れ線は5日ごとに測定した体重の変化を、また棒グラフはそれぞれ5日ごとにまとめた1日あたりの平均哺乳量と給餌量を表しています。

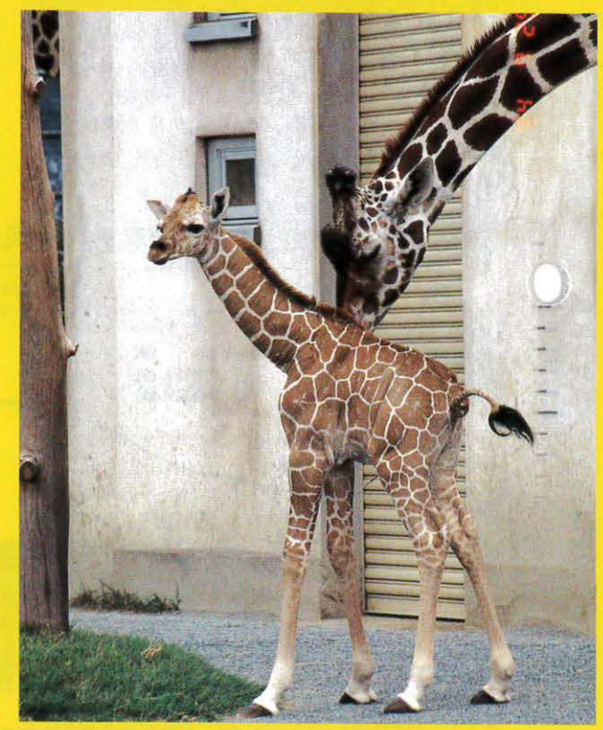
マイケル君

アミメキリンの誕生から婿入りまで

1994年7月20日に誕生した〝マイケル君〟が昨年の10月9日京都市動物園へ婿入りしました。今回はそれまでの記録です。

（撮影：小林 崇宏）

7月20日に誕生しました。まだヘソの緒がついています。



誕生後5日目にはじめて寝室外へ出ました。
“母親がそばにいるから大丈夫”

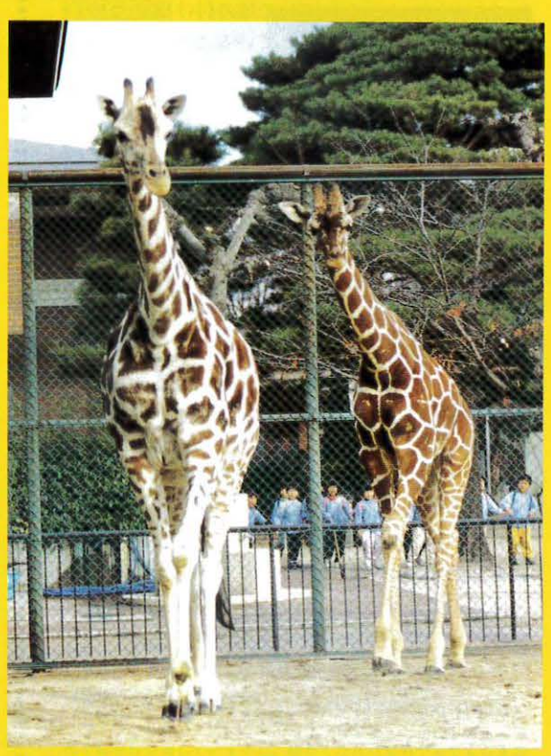
京都市動物園への婿入りが決まり運送用オリを出入口に置きました。

オリ設置後42日目に手前の餌につられてオリに入りました。ただちにシャッターを閉じ、天井をつけます。

クレーンで吊って輸送車へつみます。

京都市動物園へ出発。

1995年7月に異母弟のアンディーが誕生。室内左が大きくなったマイケル



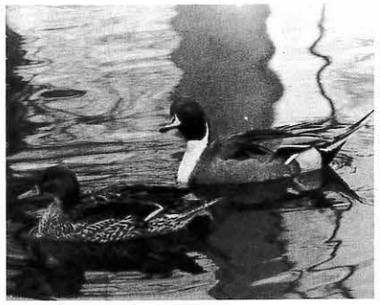
現在、京都動物園の雌と同居。マイケルのほうが若く、アネさん女房です。　（写真提供:京都市動物園）

動物なんでも相談室

カモ類の羽はとてもよく水をはじきますが、どうしてですか。
（神戸市：宮崎 寿美）

カモ類は水に入った時に羽の脂が水をはじくために、水の上にうまく浮かぶことができ、上手に泳ぐことができます。

羽の脂は、羽からにじみ出てくるわけではなく、尾の付け根にある脂腺から出てくる脂をくちばしで全身の羽に塗りつけているのです。機会があれば陸にあがって羽づくろいをしているカモを観察してみましょう。くちばしで尾の付け根をつついては全身の羽づくろいをしていることに気がつかれるでしょう。



病気などのために、しばらく水のないところで、飼育していたカモを再び水にもどすと、体の半分ぐらいまで沈んでしまうことがあります。これは泳ぐことがなかったので、あまり羽づくろいをしなかったため、羽の脂分が少なくなってしまったためです。

もし、カモをシャンプーして、水に浮かべてやると羽の脂分がないので羽毛に水がしみこみ、カモは沈んでしまうでしょう。カモが溺れ死んではかわいそうなので、こんな実験はぜったいにしないでくださいね。

（飼育課：榊原 安昭）

なぜシマウマは大きな赤ちゃんを産むのに、ライオンは小さな赤ちゃんを産むのですか。
（大阪市住之江区：谷岡 佐智子）

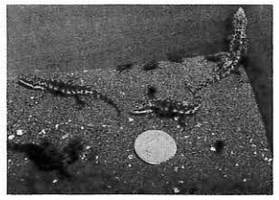
一般に、シマウマなどの草食動物の赤ちゃんは生後30分ぐらいで立ち上がり歩くことができます。これは、ライオンなどの肉食動物にねらわれるので、早く群と一緒に移動することが必要なためです。このため、シマウマの赤ちゃんはたいへん成熟して生まれます。生まれたての赤ちゃんの体重は30kgもあり、親の体重の13%になります。妊娠日数も長く350日にもなります。また、大きな赤ちゃんを産むので普通1回のお産で1頭の赤ちゃんしか産めません。

一方、ライオンなどの肉食動物は外敵に襲われることがないため、生まれた赤ちゃんは未熟で目も開いておらず、ほとんど歩くことができません。赤ちゃんの体重は1kgぐらいしかなく、親の体重の0.8%にしかなりません。妊娠期間もシマウマの3分の1以下の106日ぐらいです。体に比較して小さな赤ちゃんを産むので、赤ちゃんの数も多く平均して3頭ぐらいは産みます。

肉食動物の赤ちゃんは母親に比較して小さいので難産はあまりありません。そのため家畜となった肉食動物イヌは昔から安産のお守りになったり、安産を願うため戌の日に腹帯をするなど人間のお産と深くかかわっています。しかし、最近よく飼われているマルチーズやチワワなどの小型犬では赤ちゃんの体重は親の4.7%ぐらいにもなり、難産も多く帝王切開で出産させることもよくあります。このようなイヌでは安産のお守りにはとてもなりませんね。

（飼育課：榊原 安昭）

1／1. 今季5羽目のフンボルトペンギンがふ化しました。



1月2日 爬虫類生態館“アイファー”でワレンヨロイトカゲの展示を始めました。また、バックヤードではこのトカゲの赤ちゃんが3頭生まれました。ちなみにこの種は卵胎生です。

1／4. ヤギの双仔が生まれました。

今季6羽目のフンボルトペンギンがふ化しました。

オオタカを1羽保護しました。

1月6日 昨年ふ化したニホンコウノトリをブリーディングローンで富山ファミリーパークに貸し出しました。

1／8. コアラの体重測定を行いました。これは、健康管理のため毎週行っているものです。

1月9日 バーバリシープの蹄（ひづめ）が伸びたので、削蹄を行いました。野生動物なので、ウシと違い麻酔をかけて削りました。

1／11. 今季7羽目のフンボルトペンギンがふ化しました。

1月4日に生まれた双仔のヤギに個体識別のため耳標を付けました。

1月12日 今季8羽目のフンボルトペンギンがふ化しました。これで合計8羽がふ化、うち6羽が成育しています。

ヤギの双仔が生まれました。

1／13. ヤマドリのオスを1羽保護しました。

1／14. ホシハジロのオスを1羽保護しました。

1／15. アジアゾウのメス“博子”の採血を行いました。これは、健康管理のため定期的に行っているものです。

1／17. ユリカモメを1羽保護しました。

1／20. メジロを1羽保護しました。

今月もおもしろ情報満載 ZOO DIARY

1／21. 1月12日に生まれた双仔のヤギに個体識別のため耳標を付けました。

1／25. ハイイロギツネ3頭にワクチンを接種しました。

フクロテナガザルのオスが風邪をひいたので、治療を始めました。

1／26. 寄生虫予防のため、グラントシマウマ全頭に駆虫薬を投与しました。

1／27. コチョウゲンボウを1羽保護しました。当園では初めての保護です。

ホッキョクギツネ2頭とオオミミギツネにワクチンを接種しました。

1月28日 一昨年と昨年ふ化したアカコンゴウインコ3羽の性別判定を行いました。

外見上では雄雌の判定ができないので、小型の内視鏡で腹腔内をのぞき、精巣や卵巣の有無をチェックしました。

キジバトを1羽保護しました。

1／29. 夜行性動物舎でフクロギツネが生まれているのを確認しました。

■お知らせ■

●動物園のおじさんのお話
「ビンゴでガイド」
日時：3月17日(日) 午後1時から
集合：サル、ヒヒ舎前

「動物クラフト作り」（仮称）
日時：4月21日(日) 午後1時から
集合：レクチャールーム

訂正

□2月号P8、ネズミの仲間の説明文中、「ネズミ科」は「ネズミ目」のまちがいでした。

□2月号P2、カバーウォッチングの説明は「'94年4月に誕生したコアラのリク（オス）はすっかり成長しましたが、収容室の都合で現在は公開していません。暖かくなれば屋外でみてもらえることでしょう。」と訂正します。

愛ある暮し、応援します。

Kintetsu

近鉄百貨店

DEAR LIFE BOOKS

生態・飼育・図鑑が一つの本の中にギッシリ

中川道朗・岩合徳光／監修
B５変型判・オールカラー
定価680円

動物園で暮らす様々な生き物達、自然の中ではどんな暮らしをしているのか？　動物園での世話の仕方は？　仲間は？　など、写真と精密イラストをまじえ紹介します。

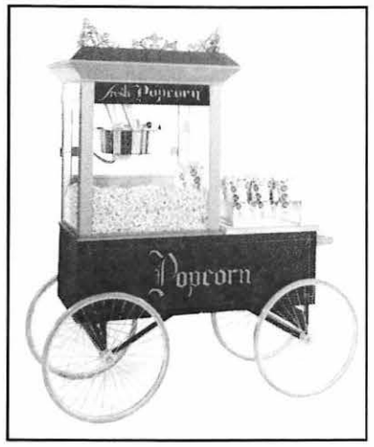
くらしとかいかたシリーズ＜既刊本＞

B5変型判・オールカラー・各定価680円

むし くらしとかいかた
野山でみかける身近な昆虫たち250種を紹介。

ちいさないきもの くらしとかいかた
昆虫以外の小さな生き物を320種紹介。

お求めは、お近くの書店で。　ひかりのくに株式会社　本社／〒543 大阪市天王寺区上本町3-2 ☎06-768-1151代表



マスダのポップコーン

マスダ　いつでも どこでも ポン ポン ポン

〈営業品目〉　製造機械・保温機　他
生コーン・袋詰ポップコーン・原材料一式

㈱増田食品　〒561 大阪府豊中市穂積1-10-30　TEL (06)865－0165

新・きれい色
FUJICOLOR
SUPER G ACE 400

カメラの大林
桜橋本店　☎341－8091
阪急三番街店　☎372－5031

動物の生態を描く唯一の文学雑誌

動物文學

昭和九年平岩米吉によって創刊

本誌は生態研究を基礎として動物文献を収集整理するとともに、シートン、ザルテン、バイコフ等の諸作家を紹介した本邦動物文学の母胎です。
〈研究・考証・記録・随筆・翻訳等を掲載〉
会費／年1,500円（切手72円・呈既刊号目次）

動　物　文　学　会

〒152 東京都目黒区自由が丘3-12-2　電話03(3717)1659・振替・東京5-9800

新作
貸出用ビデオ「楽しい天王寺動物園」
19分（10本常備）

- 対　　象／保育園・幼稚園・小学校の先生
- 貸出期間／10日間
- 貸 出 料／無料（但し郵送料510円は必要）
- 申 込 先／当協会まで手紙かハガキでお申込下さい。

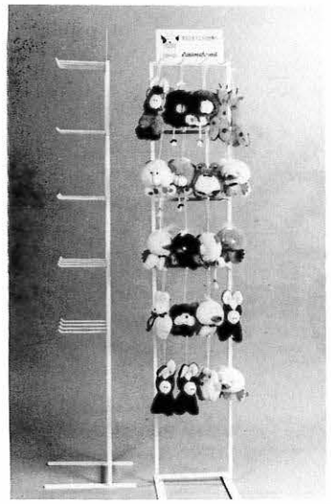
コアラテレホンカード（限定販売）
好評発売中 ¥800（50度用）

天王寺動物園の本

入園の記念・手引に……

オールカラー
500円
園内売店にあります。

大阪市天王寺動物園協会　〒543 大阪市天王寺区茶臼山町6-74 ☎(06)771-0201

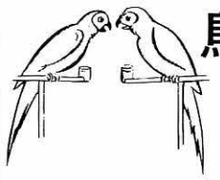


動物ぬいぐるみは 子供のゆかいなお友達

各種ぬいぐるみ企画・製造・卸

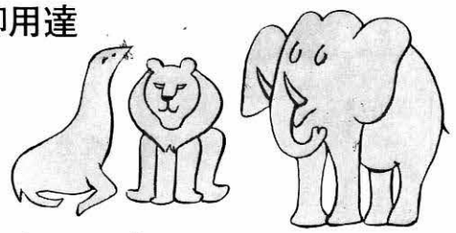
有限会社 **アニメランド**

〒547 大阪市平野区西脇４丁目５番22号
TEL：(06)704－８５８０
FAX：(06)704－８５６５



鳥獣輸入

全国動物園水族館御用達

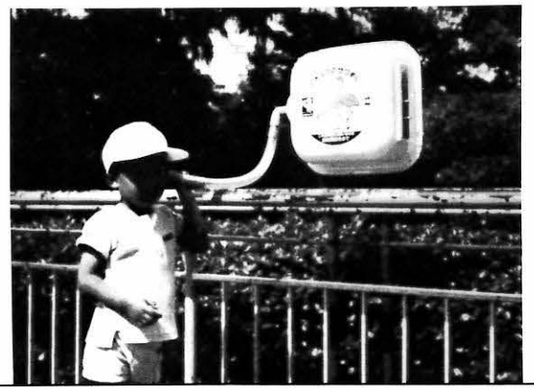


- 医学実験用動物
- 宣伝用、テレビ用、貸動物
- 原色世界雑類図鑑（34種1枚もの）要郵便券250円

有限会社 **吉 川 商 会**

本　社　神戸市中央区中山手通３丁目11番４号　電話(078)221-8195㈹
飼育場　兵庫県小野市来住町１５１３番地

たのしい〝動物のお話〟は、ガイドマシン（動物説明機）で、どうぞ!!



園内、主要動物舎
30数ヵ所にあります

関西特機株式会社
電話 06-762-2333
1回　20円

動物園内での お食事、ご休憩は

動物園内……
中央売店
TEL 06-771-0973

お食事・飲もの・おみやげ

動物園内
南園売店 TEL 06-771-7110

LOTTE

サクッとスリムなプレッツェルを、
こんがりと焼き上げたあとに
チョコをたっぷりと入れました。
「トッポ」のおいしさの人気は、
ここがポイントです。

雪印

雪印
つぶより
フルーツ
ヨーグルト

●ライチミックス　●ストロベリー　●アップル　●ピーチ　●フルーツミックス

おいしさは、産地のよさです。

台湾のライチ、フィリピンのナタ・デ・ココとパイナップル――●ライチミックス
国産の女峰、オレゴンのトーテム、中南米のチャンドラー、季節の旬を追って――●ストロベリー
日本の富士、中国・韓国の国光。それぞれおいしい季節の――●アップル
桃といえば中国です。そして韓国。旬に一括収穫した白桃で――●ピーチ
アプリコット、メロン、アップル、パイナップル、ミカン。果物狂の――●フルーツミックス

お待たせ
新発売

希望小売価格・税抜 各100円

一日
愉快に
たのしめる

◎園内3ヶ所(南園高架下・北園中央デッキ北側・北園高架下)に各種〝のりもの〟があります。

久竹娯楽株式会社
TEL(06)541-3938(代)

なきごえ　1996年3月10日発行（毎月10日発行）第32巻　第3号　（通巻367号）

編　集／大阪市天王寺動植物公園事務所
発行人／大阪市天王寺動物園協会　伊東重朗
印刷所／株式会社 松村善進堂　定価150円(送料共)　1年継続(12部) 1,650円(送料共)

〒543 大阪市天王寺区茶臼山町6―74
電話 大阪 (06) 771―0 2 0 1
振替口座 00930－2－37823

編集委員　樽本　勲／馬詰好文／増野悦敏／中川哲男／吉本昌俊／長谷川敏昭／藩合正彦／宮下　実／長瀬健二郎／榊原安昭／森本委利／高橋雅之／中上正幸／堀内智生／小林崇宏／竹田正人／大野尊信／野口秀高／早川　篤／土谷正道／村上勇一／仁田原洋